

歴史と自然の宝庫。宮崎県北の魅力を紹介

フリーペーパー発行部数
宮崎県北No.1《60,000部》

W+ing

2016
10
VOL.81
毎月発行

FREE

宮崎
県北

今と昔
part III

あの時、ここに
何があった

城山

大瀬橋

ARアプリを
ダウンロードして
スマホをかざすと
動画が見られる！



cablemedia
waiwai
ケーブルメディアワイワイ

ありがとう、地域とともに これからも

写真/愛宕山から見た昭和27年頃の延岡市街

無料です。ご自由にお持ち帰りください。

宮崎
県北

今と昔

part III

NOW &
LONG TIME AGO

あの時、ここに 何があった

人にはそれぞれ歴史があるように、生まれ育った町にも歴史がある。10年、20年と時を経ていくごとに、少しずつ姿を変え、目を閉じれば、懐かしい光景が走馬灯のようによみがえる。過去2回「県北今と昔」の特集が好評だったことから、ご要望にこたえて3回目の特集を実施した。

昔 昭和39年頃



平成23年



今年10月に完成予定の新庁舎(完成予想パース)

平成28年

10月完成予定



延岡市役所

のべおかしやくしよ

52年前の昭和39年(1964)、東京オリンピック開催に先立ち、聖火が全国を巡った。その一つが9月9日、宮崎空港に到着した。翌10日朝、平和台を出発。高校生らがリレーしながら国道10号を北上。高鍋、都濃、日向市街を抜け、同日夕方、延岡市役所玄関庇(ひさし)上の聖火台に点火された。延岡で1泊した聖火は翌朝、再び国道10号を北上し、大分県に引き継がれた。1カ月後の10月10日、オリンピックが開会した。

(延岡市役所所蔵)

昔 昭和30年代



今 平成28年



土々呂海水浴場付近

ととろかいすいよくしよふきん

昭和30年代の土々呂海水浴場付近。日豊本線を挟んで左の道路が旧国道10号。右は開通間もない国道10号。手前は御番所踏切。その向こうに臨時停車場のプラットホームが見える。現在、海水浴場跡は運動公園として利用されている。

(延岡市内藤記念館所蔵)



あの時、ここに何があった 特集

宮崎県北今と昔

私たちが生まれ育った町、家族や友だちと歩いた町。今はどうなっているのだろうか。今回は「県北今と昔」partⅢとして、昭和30年代から50年代にかけての町並みや建物の写真を中心に、現在の写真と比較してみた。

・イベントおでかけ情報

P 7 県北雑学

ああ!!懐かしき日之影線

P 8 ウイングイキイキピト

NPO 法人 高千穂アカデミー
板倉 哲男さん

P 18-29 今月の番組の見所と オススメ番組

P 34 テレビ、ネット料金案内

P 35 電話料金表



表紙/愛宕山から見た昭和27年ころの延岡市街
写真の真ん中を「く」の字型に通るのは大瀬町通り。その右側の大半は戦災で焼失した。ようやく復興してきたころの様子で、左下の2階建ては県立延岡病院。その少し上は永池旭アパート。大瀬橋は河川改修前の姿。

ARコンテンツ を楽しむには

① スマホやタブレットでCOCOAR2アプリ(無料)をダウンロード



② COCOAR2を起動

③ ARのついた画像をスキャンします
※端末は縦位置で

④ 限定コンテンツ(動画・画像)が始まります

※ダウンロード方法など、詳しくはP9をご参照ください



昔 昭和30年代

今 平成19年

改装当時

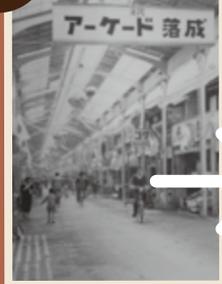


戦後、延岡の商店街は活況を呈した。戦災を免れた山下通りには、昭和31年(1956)全面高天アーケードが完成。商店街の名称も「山下新天街」に改められた
(西村 博典氏撮影)

山下新天街

やましたしんてんがい

昔 昭和31年頃



(延岡市役所蔵)

今 平成28年



昔 昭和30年代



今 平成28年



浄満町(サンロード栄町)

じょうまんちょう

昭和30年代後半のサンロード栄町。栄町は戦後に命名された町名で、戦前は浄満(じょうまん)町と呼ばれ、今山八幡宮の鳥居前町である
(延岡市内藤記念館所蔵)

延岡

延岡

ただいまみなみづめふきん

板田橋南詰付近

昭和40年ごろの板田橋南詰付近。正面の店は衣料品店の「鶴亀屋」。その向こうに食堂の「五碗堂」の看板。手前を歩く女性はカリーかごを背負っている

(延岡市内藤記念館所蔵)



昔 昭和40年代



今 平成28年



門川

昔 昭和30年代

昭和30年代の門川町の町並み。宮ヶ原地区の西側にある丘から見た様子で、正面に門川湾、乙島（おとじま）が見える。

(久保廣良氏撮影)

かどがわちく

門川地区



今 平成28年



昔 昭和30年代

日之影

日之影駅下住宅

昭和30年代の日ノ影駅前の通り。当時は国道218号であり、旅館や商店が数多く並んでいた。日ノ影駅は平成7年（1995）に日之影温泉駅に改称されたが、平成17年（2005）の台風による水害で打撃を受け、復旧することなく平成20年（2008）12月、廃止となった。しかし、温泉は従来どおり営業している。

(日之影町教育委員会所蔵)

今 平成28年



高千穂

昔 昭和40年代



今 平成28年

高千穂高校

高千穂町の中心、三田井の町並みを見下ろす県立高千穂高校の昭和40年代の様子である。現在は鉄筋コンクリートの校舎になり、写真撮影の場所は体育館が建っている。体育館の裏手は新しい国道218号高千穂バイパスが抜け、神都高千穂大橋に通じている。

(興梠敏夫氏撮影)

たかちほこうこう



昔 昭和30年代



日向

あの時、ここに
何があった

ひゅうがとみたか

日向富高

昭和30年代後半の日向市中心街の上町通り。国道10号バイパスが開通するまでは、この通りが国道10号であり、狭い通りを人や車が窮屈そうに通る抜けていた。写真中央はオート三輪車。8月の「日向ひよっとこ夏祭り」、8000年余の歴史を持つ10月の「日向十五夜祭り」には、昔も今も大勢の人でにぎわう
(都甲益充氏撮影)



今 平成28年

昔 昭和50年代



日向

今 平成28年



昭和50年代の東郷町坪谷の若山牧水生家(左手)。正面は若山牧水記念館。この建物の設計を担当したのは牧水の長男で一級建築士の若山旅人氏(故人)である。平成17年4月、坪谷川を挟んで対岸に若山牧水記念文学館が完成したのに伴い、その役目を終えた。現在は駐車場になっている。
(日向市役所蔵)

わかやまほくすいせい
「若山牧水」生家

昭和30年代



祇園町の手信号

【昭和30年ころの延岡市祇園町交差点】
県北で最初に交通信号機が設置された交差点。信号機が設置される前は、警察官が手信号で交通整理をしていた。正面のビルは宮崎相互銀行(現宮崎太陽銀行)延岡支店。

延岡



昔 昭和40年代



西郷地区

美郷

北郷地区

昔 昭和30年代



今 平成28年



西郷田代地区

田代小入口と西郷郵便局のほぼ中間にある丁字交差点。正面の山田電工は、現在空き地になっている。
(柴田 秀太郎氏撮影)

今 平成28年



宇納間中原

昭和30年代の北郷の中心地、宇納間中原のメインストリート。昔の通りは狭かった。現在は西郷方面へ抜ける国道388号の一部になっている。
(美郷町北郷支所所蔵)

今 平成28年



南郷地区

昔 昭和40年代



長堀商店街

神門のメインストリート、長堀商店街で行われた神門小の新校舎落成記念パレード(昭和40年代)の様子
(美郷南学園所蔵)

あの時、ここに何があった



●日時	●イベント名	●開催場所
10月 1日(土)・2日(日)	正調刈干切り唄全国大会	高千穂町休養村管理センター、武道館
10月 5日(水)	高齢者スポーツ大会	日之影町中央体育館
10月 7日(土)～10日(日)	トランプヒュウガプロサーフィン大会	日向市お倉が浜
10月 8日(土)	天下一薪能	延岡市城山公園
10月 8日(土)・9日(日)	日向十五夜祭	日向市中心市街地
10月 9日(日)	エンジン02 inのべおか	延岡市野口記念館ほか
10月 9日(日)	日向市総合防災訓練	東郷グラウンド
10月 10日(月)	くしふる神社大祭	高千穂町くしふる神社
10月 22日(土)・23日(日)	のぼりざるフェスタ	延岡市中町通り
10月 22日(土)・23日(日)	日向はまぐり基石まつり	日向市文化交流センター
10月 22日(土)・23日(日)	ひのかけ溪谷まつり	日之影町癒しの森運動公園
10月 30日(日)	美郷町民スポーツ大会	美郷町西郷総合グラウンド



2016 10月

みやざき県北 イベント おでかけ情報



県北雑学



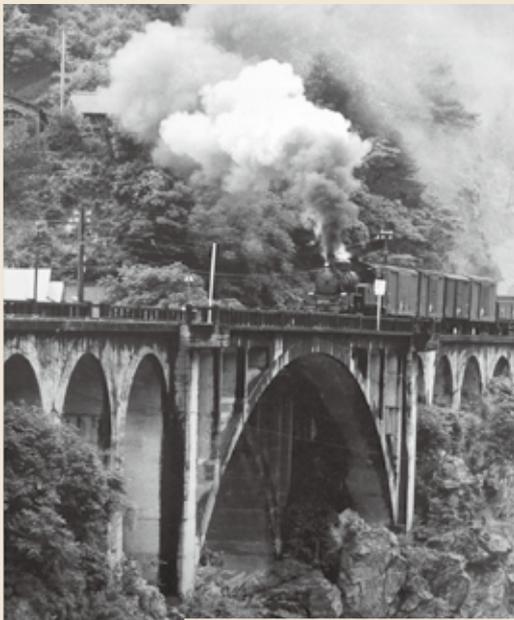
NOBEOKA
HYUGA
KADOGAWA
MISATO
TAKACHIHO
HINOKAGE

NO.81

ああ!!懐かしき日ノ影線

失われつつある面影

平成17年(2005)9月6日、TR高千穂鉄道は、台風14号による空前の大水害によって命脈を絶たれた。あれから今年で11年、レールはほとんど撤去され、列車が走っていたころの面影は次第に失われつつある。



▲横峰駅近くのアーチ橋を走る貨物列車。昭和20年代▶平成15年頃のアーチ橋を渡る今は無きTR高千穂線。

影線である。鉄道ファンのみならず、県北の年配者にとつては、日ノ影線時代は懐かしい。

7年で延岡〜日ノ影開通

日ノ影線のスタートは、昭和10年(1935)にさかのぼる。この年、延岡〜日向岡元間が開通。そ

の後は年々延伸されて、同14年(1939)には日ノ影まで達した。着工が同7年(1932)だから、延岡〜日ノ影間37・6キロほどを、じつに7年というハイスピードで仕上げたことになる。高千穂(延岡から50キロ)まで延びたのは同47年(1972)のこと。



▲高千穂駅 平成15年頃
▲現在の高千穂駅

細島線もガソリンカー走る

当時は蒸気機関車(SL)が客車や貨車をけん引。昭和30年代になって客車は気動車になった。しかし、貨車は変わらずSLがけん引した。

気動車にはガソリンカー、ディーゼルカー、天然ガス車などがある。日本で最初に登場したのはガソリンカー。日ノ影線も一時ガソリンカーが走ったが、すぐにディーゼルカーに切り替えられた。



迫力あったC12のドラフト音



▲昭和30年代のガソリンカー

写真①は横峰駅から300メートルほど延岡寄りのアーチ橋を走る貨物列車。SLはタンク機関車の「C12」。兄弟のような「C11」と同様、小回りの利く小型のSLだが、勾配のある線路を進むときは、大型SLに引けを取らない迫力あるドラフト音を五ヶ瀬川の谷間に響かせた。

日ノ影駅、日向八戸駅など沿線の駅から木材や木炭、横峰駅から

は近くの横峰鉱山から掘り出された鉱石も運んだ。列車が走り去ると、あたりは石炭の匂いとケムリが漂い、その余韻がなんとも言えなかった。SLが姿を消したのは昭和49年(1974)。

町は日ノ影、駅は日ノ影

余談だが、ヒノカゲの町の表記は「日ノ影」、当時の鉄道と駅名は「日ノ影」、宮崎交通のバス停は「日ノ影」と、全国でも珍しい使い分けがなされ、マスコミ泣かせの表記として有名だった。現在、日ノ影駅は列車は走っていないが、「日ノ影温泉駅」として健在である。

終点の高千穂〜天岩戸間2・1キロ区間と、川面から日本一高い所(105メートル)に架かる高千穂橋梁(352・5メートル)は、高千穂あまてらす鉄道(株)が、スーパーカーを運行。将来、高千穂〜日ノ影温泉間の再興を目指している。



▲平成15年頃の日ノ影温泉駅
▲現在の日ノ影温泉駅と宿泊施設



写真=興沼敏夫氏、渡辺正輝氏撮影

W+ING POWERFUL PEOPLE イキイキビト

高千穂町の地域おこし協力隊隊員
「高千穂郷食べる通信」編集長

NPO法人高千穂アカデミー

板倉 哲男さん

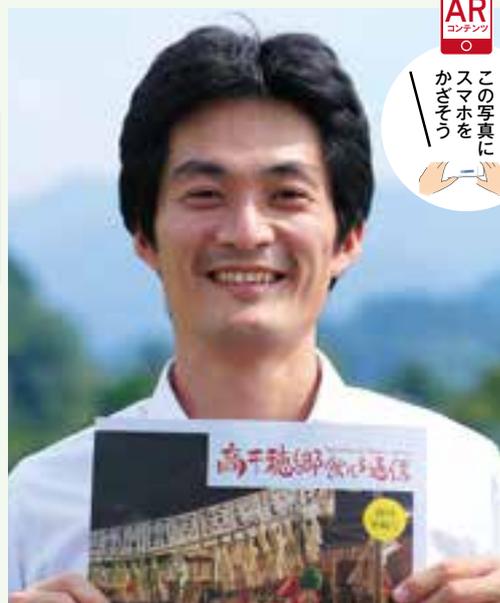
[38歳]

TETSUO ITAKURA



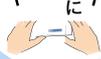
PROFILE_TETSUO ITAKURA

高千穂町在住の38歳。島根大学農学部卒。福井県の農業法人で2年間研修。その後海外青年協力隊として2年間アフリカのマラウイ共和国へ。帰国後大阪の老人ホームで介護職、ホームページ制作会社に勤務。高千穂町「地域おこし協力隊」の募集を見つけて高千穂に移住。地域のために頑張っている。



AR
コンテンツ

この写真に
スマホを
かざそう



「棚田がすごくキレイ」

板倉さんが「地域おこし協力隊」の一人として高千穂にやって来たのは昨年4月。

それ以前は、島根大農学部卒業したあと、福井県の農業法人で2年間研修、海外青年協力隊として2年間アフリカのマラウイ共和国へ。

帰国後は大阪府堺市の老人ホームで介護、さらにホームページ制作会社の仕事をこなしてきたが、農業にかかわりたいという夢は変わらなかった。そんなとき、高千穂町「地域おこし協力隊」の募集を見つけたと言つ。「高千穂は棚田がすごくキレイですね。地域コミュニティがシッカリしていて、絆が強い。でも閉鎖的ではないし、私のようなよそ者でも、受け入れてくれる寛容性があります」と、すっかり地域に溶け込んでいる。

「世界農業遺産」に認定

板倉さんが高千穂にやって来た直後の昨年5月、FAO(国連食糧農業機関)の調査団が高千穂や椎葉を訪れた。7か月後の12月15日、FAOは「高千穂郷・椎葉山地域」(高千穂、椎葉、諸塚、五ヶ瀬、日之影)を世界農業遺産に認定した。

貴重動植物の生息する祖母山系、高千穂峡をつくる五ヶ瀬川、美しい棚田に育まれた稲、それにシイタケや茶、日本有数の肉

質を誇る「高千穂牛」、天孫降臨伝説の地、国の重要無形文化財の神楽、温厚な人々など、高千穂の魅力は枚挙に暇がない。

盛り上がりがいマイチ

「世界農業遺産」に認定されましたが、地域が盛り上がりつつないんです。地域の魅力が地域の人に伝わっていないんです。地域の魅力を知り、誇りを持って欲しいのです」と、語気を強める。



「高千穂郷食べる通信」

ならば高千穂の魅力を生かし、地域を盛り上げようではないか。そこでユニークなアイデアが生まれた。そこで情報誌を発行することにした。「食」を通じて高千穂の魅力を発信するため、食べものの付きの情報誌を発行しようというわけだ。名付けて「高千穂郷食べる通信」。

食べもの付き情報誌！

特定の生産者をクロスアッパした情報誌と、その人がつくった食べものをオマケとして届けることにした。

さらに特集で紹介された生産者と読者は、SNSやイベント、現地見学や農業体験ツアーなどを通して直接つながることができ。そうすることで、互いに尊重しあえる仲間になり、読者は高千穂が好きになる。

創刊号は発行したばかり

「高千穂郷食べる通信」のサイズはタブロイド版(ふつうの新聞の半分)で、12ページ。価格は毎号3500円(情報誌十食べものII税・送料込み)。年4回の発行を予定しており、創刊号は9月に発行されたばかり。

創刊号には同町上野の和牛生産者、田邊貴紀さん(38)の特集



が組まれた。次号は12月。目下その取材などで忙しい。年が明けると3月号、6月号と続く。発行元は、NPO法人高千穂アカデミー(佐藤翔平代表)。板倉さんはその編集長を務め、三田井中心街にある「コワーキングスペース(四五二)」が仕事場。同誌のスタッフはほかに小池美美さん、佐伯勝彦さん、田崎友教さん、田尻哲朗さんがいる。

今後の活躍に期待

国策の「地域創生事業」の一環として、全国で活動している地域おこし協力隊。その旗手として高千穂で活躍する板倉さんをはじめ、高千穂アカデミーの奮闘は、興味深いものがある。板倉さんは独身。出身地の堺市には両親がいるが、堺の戻るのは大阪などで開くイベントのときぐらいとか。



和牛生産農家の田邊さんと

高千穂郷食べる通信
編集長板倉さん

